

WIN

特集 受験勉強基礎中の基礎

■ 勉強を始めるための7つ道具

■ 達人に聴く ●古田土 満先生



Suidoubashi

9月開講が始まりました。
1年間がんばりましょう！
笑顔で皆様を
お待ちしております。

大原を信じて
一緒に合格を
勝ち取りましょう

いよいよ税理士試験の学習がスタートします。「初めが肝心」としばしば云われますが、これは税理士試験も例外ではありません。職員一同、受講生の皆様がよりよい学習のスタートを切れるように、1回目の講義から全力を投入する所存でおります。

大原税理士講座のウリは、「専任講師体制」です。専任講師とは、税理士の受験指導だけに専念しているプロの講師をいい、大原税理士講座には全国28校に400名以上の専任講師がおります。この専任講師が本試験を徹底的に研究し、合格するために必要なカリキュラム、教材開発を行っているからこそ、毎年多くの合格者を輩出することができるのです。また、講師が職員室に常駐していますので、いつでも受講生の皆様の質問に答えることができますし、勉強方法など学習上のご相談にもものごとができます。もし学習していて分からない項目が出てきた場合には、遠慮なく質問をしてすぐに解決するようにしてください。一人ひとりの受講生を大切に「熱意ある講師」があなたをお待ちしております。

また、大原ではテキストも専任講師が自ら作成しています。受講生の反応、各種試験の出来具合、本試験の合格状況などを見て、毎年改訂をしています。ですから講義で使いやすく、分かりやすいと大評判です。大原のテキスト以外に必要なものはありません。

大原を信じて、1年でも早く合格を勝ち取れるように一緒に頑張りましょう。

受験勉強

基礎中の基礎

いよいよ2007年合格へ向けての講義がスタートします。そこで、今月号では合格のための基礎中の基礎ともいえるポイントを2点に絞り込んで紹介します。初めて税理士試験に挑戦される方もそうでない方も、ぜひ、今後の学習の参考にしてください。

初志貫徹

これから受験勉強を始められるみなさんは、今、「今年絶対に合格するんだ!」という熱い気持ちでいらつしやるかと思えます。その気持ちは1年間持ち続けてください!

継続は力なり

気持ちと同じくらい合格するために必要になってくるのは、勉強方法になります。勉強も気持ちと同様、1年間継続することに意味があります。

初心忘るべからず

今回は、これから始まる1年間の学習に先駆け、合格のための勉強方法のうち絶対条件となるものを2つに絞ってご紹介致します。初めて税理士試験に挑戦される方はもちろんのこと、そうでない方も初心に戻り自分の勉強方法と照らし合わせてみて、今後の学習の参考にしてください。

I 講義を休まない (たった1回だけ!)

例えば、週2回講義のある科目の一般コースについては、これから約1年間に渡り全78回講義があります。そう思うと1、2回休んでしまったとしてもどうってことはないような感じがします。しかし、そんなことはありません。全78回のうち、必要のない講義はありません。各回で確認していく項目の一つ一つが重要な項目になっていきます。講義で聴かなかつた項目については理解が疎かになり、そこが弱点となってしまうことが往々にしてあります。「講義

に出ない!」その項目を捨てる」ということを認識しましょう。では、そこが本試験に出題されたらどうでしょう? その1回のためには涙を流すことに…なんていうことも想定できます。厳しい税理士試験においては、気を抜いてしまうことは許されません。

しかし、長い1年という期間の中には病気・仕事などの様々なうにも避けられないことがあるかもしれません。そんなときには、振替出席制度や欠席フォロー制度(MP3・DVDの貸出しを行っています)を利用して、講義を聴いて頂ければいいと思います。要するに、講義に穴を空けてしまうことがなければ大丈夫です。

II 理解する (本当にわかっているか?)

講義を休まない。これが合格のためには必須の条件です。しかし、税理士試験合格のためには次のステップができるかどうか重要になります。それが、内容をしっかりと理解することです。理解とは、「ものの道理をさとり知ること(岩波書店 広辞苑)」で、自分自身で確認して気付くことです。講義で聴いて分かったといっても、それは理解を助けるためのものであって本当の意味での理解

ではないのです。ですので、理解のための勉強を別になければいけません。その具体的な方法は次の3つです。

- ①宿題・ミニテスト
- ②定例試験
- ③質問

①宿題・ミニテスト

宿題は講義の内容に沿った項目の演習問題。ミニテストは前回の講義の復習問題。どちらも毎回の講義内容のみさんの理解度を確認するためのものです。「講義を聴いたら分かった気がしたけど、宿題をやってみたら出来なかった。」こんなことをよく耳にします。この状態こそ脱しななければいけない状態になります。ズバリ、理解ができていないのです。分かなければテキストなどを読み返して、確実に解けるように毎回の宿題をこなすようにしましょう。「宿題ができる=理解した」という一つの基準になることを認識しましょう。また、ミニテストについては宿題が解けるようになれば確実に解けるものですので、毎回の講義でミニテストで満点を取ることを目標にしてみるのも良いかと思えます。

講義を聴いて分かったとしても

放っておけばどんどん忘れてしまいます。何もしなければ人間の脳は24時間後にはその80%を忘れてしまっていると言われています。ですので、宿題は早くやればやるほど効果が高くなります。講義後すぐに宿題をこなすようにしましょう。具体的には、午前や午後講義を聴いた場合にはその日のうちに、夜に講義を聴いた場合には次の日までに1回目の宿題をやるようにするのがお勧めです。

②定例試験

定例試験は毎回の講義ごとではなく、まとまった回数分の講義(例えば毎月ごと)についてそのまでの学習項目の理解度を確認するためのものです。各回でせっかく理解した内容であっても、そのまま放置してしまつては記憶は徐々に薄れていってしまいます。1度理解したといつても本試験でそれが発揮されなければ無意味になってしまいますので、本試験までに定期的に今までに学習した項目の再確認をすることが必要になります。そのため、効果が高いと思われる時期に実施されるのがこの定例試験になります。ですので、定例試験のためにそれまでの学習項目の総復習をすると共にいざ試験を受け、分からない項目・

間違い

③質問

復習をしていたりして、みなさん自身で色々なことを考えてみる講義を聴いていたときには思いつかなかつた疑問点が出てくることがあるかと思えます。そんな疑問が出てきたらどうしますか?

- A…放っておく
- B…自分で調べる
- C…担当講師に質問する
- D…勝手な解釈をしておく

まず、やってはいけないことがAとDですね。本試験でそこが出題されたら…一生の後悔に

なつてしまいます。残るBとCについてはどちらでも構いませんが、お勧めなのはやはりCですね。Bも理解のためには良いのですが、受験は時間との勝負ですので、時間に限りがある場合には最適な方法とは言いにくいかと思えます。みなさんは担当講師に質問をすることができませんので、「こんなことを質問するのは恥ずかしいのでは?」などと思わずに、疑問に思つたらすぐに質問するようにしましょう。時間が経てば経つほど何を質問しようと思つていたのを忘れてしまいます。

しかし、質問をする際には「分からないから教えて」ではなく、「自分はこう思うのだけれど…」というように、まずはみなさん自身でなぜ分からないのかを自己分析してから質問することをお勧めします。こちらの方が理解の定着は格段に早いですよ。

おわりに…

以上に挙げた2つのことは当たり前のことですが、1年を通じて実行するのはなかなか大変なことです。しかし、この2つは合格者(全受験生の10%~15%)に入るには必要なことになつてき

の同じ時間に聴くことができずので復習のペースなどが作りやすくなります。

上記のことは通信生についても同様です。しかし、通学であればある時間に教室に行けばスケジュール通りに講義が進んでいく「ものですが、通信の場合には「自発的に講義のスケジュールを組み、講義を聴いていかなければいけない」ものになります。ですので、まずは「何曜日の何時に講義を聴く」というスケジュールを立てるのがお勧めです。そのスケジュールに従つて自分のペースを作り、1年間講義に穴を空けないように注意してください。



STUDY ADVICE

勉強を始めるための7つ道具

いけません(ちなみに修正液・修正テープは使えません)。いきなり本番で消せないボールペンでの答案作成は大変ですから、普段の講義でのミニテストや定例試験からボールペンでの解答に慣れておきましょう。

水性・油性や握りの部分の太さ、材質など様々なタイプのものが売られています。ぜひ文房具屋で試してみたい自分の好みのものを探してください。結構楽しいですよ。理論用と計算用で2種類を使い分けてもいいですね。

②電卓

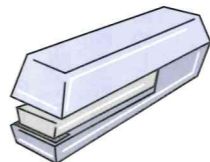
電卓も受験には欠かせないものですね。これも、いろんなタイプのものがありますが、12桁以上で早打機能のついているものを選びましょう。持ち運びが便利だからといってカード電卓などで済ませないようにして下さいね。計算の速さや正確性が全く違ってしまいます。

また、紙に記録する機能や、音の発する機能等がついているものは本試験で使えませんが、音をつけて電卓を選んでください。使えない電卓について詳しい情報が国税庁のホームページ(<http://www.nta.go.jp/category/zeirishi/siken/ga/anser/ga05.htm>)にありますので、気になる方は調べてみてください。

③ストップウォッチ

もう少し先の話しになりますが、定例試験や模試を受ける時には、どのくらいの時間が経過して、残り時間がどれだけあるかをチェックしながら問題を解くことになりません。時計では開始時間を覚えていないといけません。ストップウォッチであればすぐに判断できます。

高いものでなくてもかまいませんから、用意しておくことと便利です。



④ホッチキス

ストップウォッチ同様、試験を受けるときに使えます(問題がバラバラにならないように止めるのです)。

今はペンケースに入るような小さいものや薄くしたためるものもありますのでそんなにかさばらないと思います。ただ、あまり小さいと綴じる力が弱くなってしまいうすから、ご注意を! 10枚くらい綴じられるものにして下さい。

⑤マーカー

講義の中で重要なところをマークするように指示する講師がほとんどです。また、それ以外にも自分が苦手なところなどを目立たせるためにマークを引いてください。

理論暗記の際に、内容や言葉ごとに色分けをして覚えやすくする方もいらつしやいます。

⑥メモ用紙(計算用紙)

チェックの問題は繰り返し解きますから、直接記入せずに、メモ用紙(計算用紙)を用意してそこに書いていきましょう。何かの裏紙でもかまいません。

⑦バインダー

大原のテキストは26穴のバインダーで綴じられるようになっていきます。配付されたプリントや自分で書いたメモ書きなどを一緒に綴じておけば探す手間が省けますね。

この7つ道具を用意して、快適に学習を進めていきましょう。番外編となりますが、疲れたときのためのチョコや眠気対策のガムなどもお勧めです!!

条文の読める税理士になろう!

条文が読めるようになると税法を体系的に理解できるようになりますので、応用力もつきます。また、税法のリズムに慣れますので、理論暗記にも効果があります。もちろん、皆さんが税理士開業した後も、税法の改正に素早く対応できますし、難しい案件にも正しい判断ができるようになるでしょう。大原で学んだ皆さんには、ぜひ法律に強い税理士になってほしいと思います。

税こらむ

税法の講義では「法規集」や「通達集」を使用することがあります。これらを総称して「条文」といいますが、受験生の中には条文を読むのが面倒くさいとか、意味がないと思っている方も多いのではないのでしょうか? 税法は「法律」です。皆さんが目指している税理士も「法律家」なのです。皆さんには「条文の読める税理士」になってほしいと思いますし、そのために日頃から条文を読む習慣を

O-HARA DIARY 2006

- 7/6/木 戸田先生(水道橋校・所得)、東久ビルの自動販売機でジュース(120円)を購入。520円を投入しボタンを押すが、その後100円釣り切れのランプに気付く。100円玉1枚と10円玉30枚を手にもった表情で職員室に戻り、あまりのショックに肝心のジュースを忘れる。
- 7/6/木 鳥羽先生(水道橋校・所得)、東久ビルの自動販売機でジュース(120円)を購入。120円を投入しボタンを押すと取り出し口には2本のジュースが。喜びのあまり大はしゃぎで職員室に戻る。
- 7/7/金 池田先生(富士宮校・法人) TAX毎年恒例の七夕で、受講生から「彼女ができますように!」と書いたでしょ、と言われていた。本人は否定をしていたが周囲の目は書いたと確信していた!
- 7/19/水 食玩が大好きな岡田先生(水道橋校・相続)、有名な車の玩具付のコーヒーを自当でコンビニのコーヒーを買い占める。玩具を取り外したコーヒーは20円引きで相続税法科のスタッフに販売された。
- 7/22/土 大宮校職員待望(?)のメロディ喫茶が大宮校の隣に完成。広告宣伝活動のために店の入口付近でメイド姿の店員が「お帰りなさいませ」と通行人に呼びかけている事に目をつけた鈴木先生(大宮校・消費)、にやけ顔で、事あることにその前を通る。気分はすっかりご主人様・ちなみにまだお店には行ってはいません。
- 7/24/月 佐藤(和)先生(渋谷校・簿記)、出勤前にパルサンをたいて自宅を出るが、忘れ物を取りに引き返してつぶされる。
- 7/25/火 網野先生(水道橋校・簿記)、昼食にベヤングソース焼きそばBigサイズ(2人前)を購入するも簿記論科のポットのお湯を使い果たして大目玉をくらう。
- 7/25/火 大人になって初めての健康診断に臨んだ田中先生(立川校・財表)。「僕、自分の血液型知らないんですよ〜」ということで、採血のついでに調べてもらおうとしたが、「2千円になります」といわれやむなく断念する。田中先生、さあLet's献血!!(続く)
- 7/28/金 小川先生(津田沼校・財表)、コンタクトを紛失したので、再購入するための眼科へ。このまま使用するも緑内障になる恐れがあるので再検査を受ける項目に。コンタクトの紛失と再検査で2倍のショックで凹む。
- 7/28/金 珍しく札幌も30°Cオーバーの真夏日となったこの日、若手ホープの浦瀬先生(札幌校・法人)、待望のオフに夏の暑さを満喫か!? と思いきや、喫茶店を何軒もハシゴして過ごしたそうです。何か虚しい。
- 7/31/月 古川先生(横浜校・所得)、第一子誕生を心から喜ぶあまり、WIN特集の“なんでも講師ランキング”に息子「太陽」を載せようと、将来の推定身長でエントリーするも編集部に見破られ、あえなく断念。17年後には200cm…。

今月のPICKUP★ 水道橋校 所得税法 松本先生

7/3(月)夜中なかなか寝付けずコンビニへ買い出しに行く。その帰りに「その学生止まりなさい」との声。振り返ると警察が…。学生に間違われ補導されさうになる。



受験日記 大原くん

第1回 挑戦

税理士試験の受験勉強から離れて、何年経つだろう。大学生の頃から簿記を始め、税理士を目指そうと思うには時間がかからなかった。就職活動もろくにせず、在学中から税理士試験の勉強に専念して3年。簿記論と財務諸表論には何とか合格したものの、その後は、会計事務所就職し、仕事の忙しさを理由に受験勉強には一線を引いていた。このままで良いのだろうかと考えようになったのは、先日、大学時代の同期と呑んだ頃から。その同期は、今も税理士試験の受験を頑張っていて、私とは違って順当に合格科目を増やしているとのこと。今年はラスト1の科目を受験するらしい。その時、同期の奮闘に羨ましいと思うと同時に、悔しいと思う自分がいることに気付いた。やはり、やりかけたことを途中で諦めたくないということか。このまま流されることも悪くはないと思っていた自分だが、なぜ会計の世界に足を入れたのかを思い出し、数年ぶりに受験勉強を復活させることにした。

ちなみに、私が選んだ受験科目は法人税法。税法は年内だけしか勉強したことがなく、さらに受験生活自体にもプランがあるため、いきなり重たい科目をやっても大丈夫かとの不安はあるものの、相手にとって不足無し。逆にこれぐらいの手強い相手の方が、やらなくては奮起すると思った。

いざ受験勉強を始めると、教室、黒板、休憩室での雰囲気など、懐かしく思う自分がおかしかったし、また新たな挑戦が始まると思うと、わくわくした気持ちになった。とにかく今年の目標は、言い訳をせず、通年授業に出続けること。毎回の宿題をしっかりとこなし、疑問点は頑張って質問すること。そして、絶対に合格するぞ!!

講師なんでもランキング

今月号のテーマは「身長」

第1位

水道橋校 簿記論 **村井 康将**

189cm

小学校6年のときには178センチという圧倒的大差で一番後ろの列に並んでいました。周りの同級生たちはなんでこんなに小さいのか理解に苦しんだことを今でも覚えています。現在に至っては、あまりに大きくなりすぎたため電車に乗車することが出来ず、自転車で通勤をしています。

第2位 難波校 消費税法 **古田 康人**

186cm

ジャンボ吉田の異名を持つ吉田康人講師にかかれば、太陽の塔もほーらこの通り!!しかし、水道橋校にはさらにビッグな講師がいる様で…世の中広いものです。

第2位 水道橋校 財務諸表論 **鈴木 一広**

186cm

「中2で161cm、中3で178cm、それから高校時代チョコチョコ伸びて知らぬ間に186cmまで伸び伸びと成長。カラオケスナックにおいてリンダリダで踊り狂い、店の天井に穴をあけた経験有。打倒村井で鉄棒にぶら下がる毎日です。」

第5位 神戸校 所得税法 **渡辺 秀俊**

182cm

第5位 福岡校 簿記論 **田島 英明**

182cm

第4位 札幌校 消費税法 **加藤 一博**

183cm

古田土 満先生

古田土公認会計士・税理士事務所
〒134-0088
東京都江戸川区西葛西5-4-6 アールズコート302
TEL 03-3675-4932
FAX 03-3675-4990
URL <http://www.kodato.com>

実務界で活躍される方にお話を伺う「達人に聴く」。今月号にご登場いただくのは、東京都江戸川区の古田土公認会計士・税理士事務所 所長 公認会計士・税理士 古田土満先生。経営計画書と月次決算書で中小企業に元気を与え続けている古田土先生に、税理士として大切なことを中心にお話を伺いました。



お客さまに喜ばれる それが税理士の醍醐味

事務所ならではの月次決算書
小野 先生が業界を目指されたきっかけから教えてください。
古田土 今では信じられないとよく言われるのですが、高校時代は口下手だったのです。商業高校だったので、授業で商売の実習があるのですが、「いらつしやいませ」さえもともに言えなくて、ほとんど売れませんでした。これは向いていないなと思い、では向いているのは何かと考えた結果、税務職員がいいと思いついたのです。税務職員なら営業トークは必要ないですからね(笑)。

ところが、適性試験で不合格になりました。それで、一浪して大学に行き、そこで何か資格をと思い、税務職員の延長線上に浮かんできたのが公認会計士と税理士で、公認会計士の勉強を始めました。
小野 合格後は、監査法人に勤められたのですか。
古田土 しかし、監査は私には向いていませんでした。もちろん、3年程度しかやっていませんので、まだまだ実力がなかったのかもしれないですが、どうしても粗探しばかりしているようで、人様に喜ばれる実感がわかなかつたのです。ところが、

税務を経験してみると、これは向いている、と思いましたね。お客さまに喜ばれようと思ってやればやるほど喜ばれる。こんなに面白い仕事はないと思いました。
小野 先生は監査法人に3年強、その後、個人の会計事務所に1年強勤められた後に30歳で独立され、5年前あたりからは毎年100件近くのお客さまが増え、大変な活躍だと伺っています。私が言うのも失礼ですが、高校時代に税務職員の適性試験に不合格でよかったのですね。

古田土 そうですね。私はとても運がいいのだと思います。税理士になって本当によかったです。
小野 現在に至るまでに大きな苦労などありましたか。
古田土 お客さまに恵まれ、お客さまの紹介で少しずつ増えてきましたので、お金や営業などで苦労したという経験はありません。どこかで急成長したのなら、突然問題が出てくることもあったかもしれませんが、コツコツとやってきましたので、おかげさまで営業活動をしなくてもお客さまの紹介でお客さまが増えています。

小野 お客さまからの紹介というに、そういう方は、先々は自分だけでなく、事務所全体も伸ばしていく大きな力になります。
小野 先生のお考えになる税理士業界の将来性についてお聞かせください。
古田土 とても明るいですよ。私たちは、特に優れた技術があるわけでもなく、当たり前の方法しかやっていませんが、毎年お客さまが増えています。お客さまのことを熱心に考え、一所懸命やれば必ず受け入れてもらえます。伸びていない会計事務所は、失礼ですが、まだまだお客さまのために一所懸命になつていない、もしかしたら先生商売をしているのではないかと思います。お客さまと同じ視点に立つて、いかにして役に立つか、喜ばれるか、そして、会計が経営に役に立つかを理解していただくようにやっていけば、私たちのような地味な当たり前の仕事でもお客さまに感謝していただけます。ですから、若い人たちが、本当にお客さまのことを思つて仕事をすれば、まだまだ市場は開けていきます。

小野 最後に大原生にメッセージをお願いします。
古田土 ひとことで言うと、税理士業界はとてもいい業界ですよ、と伝えたいですね。一所懸命やれば、お客さまに喜ばれ、さらには新しいお客さまを紹介していただくだけ、自分もお客さまと一緒に成長して行けます。また、普通の一般企業です

のは、相当な信頼がないと何度も続くものではないと思います。その辺りの秘訣のようなものはあります。

古田土 技術を持つているからではないでしょう(笑)。こまめに1件1件のお客さまを大切に、どうしたら喜んでもらえるかを考えながら手回ひまかけてやってきたからだと思います。
小野 先生の事務所で作成されている経営計画書と月次決算書を見させてください。ただ、単に貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書などが並んでいるものではなく、数ページにまたがる冊子になっており、中には経営のアドバイスが書いてあったり、初めて見るような細分化されたオリジナルの図や決算書があったり、さらには表の中に空欄まであったりと、驚かされました。

古田土 独立当初から、経営計画書と月次決算書には力を入れてきましたので、毎年、お客さまにとつて何が良いか、どうやったらわかりやすいか、そして喜ばれるかを考えながら改良を重ねて成長させていくうちに今の形になりました。今後も良いと思つたことは取り入れていきますので、まだまだ変わっていくと思いますよ。空欄を設けたのは、その場でお客さまと一緒に埋めるため。共同作業で作成することによって、お客さまにも数字に強くなつてもらうと思つたからです。

人間性を高める
小野 お客さまは主にどういった方が多いのですか。
古田土 従業員30人前後の中小企業を中心にあらゆる業種のお客さまがいらつしやいます。多くの中小企業の経営者は、個人補償までして想像以上の大きな責任を負つて経営しています。そのお客さまのお役に立つのが私たちの使命であり、少しでもお客さまのモデルになるような事務所になることが、私たちの存在価値であると思います。そのためにも、事務所の経営状態は職員にもお客さまにもオープンにしていますし、無借金経営を続けています。

小野 お客さまに喜んでいただくために様々なサービスを提供されていると伺っていますが、そのいくつかをご紹介します。
古田土 中小企業に特化しているからこそ、という点でいえば、まずは、中小企業の本当の情報提供がありますね。例えば、ポナナスの平均などが新聞に掲載されますが、あれは一部の大企業の話であつて、世の中の本当の平均ではありません。私たちは300社以上の年末調整をさせていただいていますので、その統計を出し、正しい中小企業の情報を提供しています。また、セミナーや講演会も実施しています。その中には講師として面白い営業活動をしている経営者や利益を伸ばしている経営者を私たちが探し出してお願いしているものもあります。有名コンサルタントのお話だと、場合によっては中小企業に向かないものや理解し難いものがあります。しかし、実践している人の具体的なお話は、本当に役に立ちます。あとは、異業種交流会。お客さま同士のお見合いで、普通の異業種交流会だと誰か参加しているのかわかりませんが、この場合は、会社の数字を私たちが見ているので、安心してお付き合いできます。

小野 先生の事務所は、「あいさつ」や「そうじ」でも有名です。本日お伺いさせていただいたさいも、事務所に入るなり50名以上はいらつしやつたと思いますが、職員全員が一斉に立ち上がり、「いらつしやいませ」とあいさつしてくださいませ。全員が立ち上がりつてというのは、初めての体験です。
古田土 「あいさつは全員で」、そ

れはとても大切なことです。そして、お客さまは立つてこられるわけですから、私たちが立つてあいさつをするのは当たり前のことです。座つて、あいさつをしていては、相手に伝わりません。あいさつとは、自分であいさつしましたでは駄目で、相手に伝わつてこそ意味があるのです。
小野 そうじも事務所の整理整頓が行き届いていることはもちろん、定期的に駅前のそうじもされていると伺っています。どのようなお考えから始められたのでしょうか。
古田土 これらは、私の理念や価値観からくるものです。私は常に世の中のため人のために役に立つ、そして人間性を高めるためにはどうすればいいかを基本に考えています。ですから、自然に事務所経営もどうしたら売上が上がるかではなく、どうしたらお客さまに喜ばれるかを真っ先に考えます。私たちが大切にしていることは、人間の根幹の部分ですから、事務所は時代に左右されることなく安定成長していきと思っています。

お客さまのために
小野 では、事務所に欲しい人材像も理念を共有できる方ですね。
古田土 そうですね。これが、最優先です。少々仕事ができなくても価値観の同じ人と働いていたほうが、楽しいですからね(笑)。それ

と、明日の売上の保証がないところが多いですが、会計事務所というのは、当月行つて、来月、再来月の予定を日程に組み込めば、もう売上が確定するのです。会計事務所を経営するという先々の話も含めて、会計事務所勤務するということは、結構安定しているのです。実際、会計事務所がぶれたという話はあまり聞きません。皆さんが、何かのきっかけで、目指す先としてこの業界を選んだと思います。それは、とても運のいいことだと思います。税理士業界は、チャレンジする価値のある業界です。
小野 本日は、お忙しいところ貴重なお話をありがとうございました。



五分前
精神

インタビュー後記

古田土先生は、従業員30人前後の企業に特化して仕事をされています。大きな企業を相手に無理をすることなく、その代わりに行き届いたサービスを提供されているのだと思います。同じ規模の企業を相手にしているからこそ、同じ悩みを持つ経営者を集めた異業種交流会が活きてきますし、本当に意味のある情報提供ができるでしょう。古田土先生の事務所は大きな事務所ですが、その経営の仕方は小さな会計事務所にも相通ずるところがあります。皆さんにも是非参考にしてほしいと思います。

小野恭利